

道の駅頓原

周辺エリア整備 基本計画

飯南町

目次

1. 道の駅頓原周辺エリア整備の目的と背景.....	1
2. 位置図及び対象区域	2
3. 対象地を取り巻く環境変化	3
4. 敷地の現状.....	5
5. 整備のコンセプト及び目指す整備効果	8
6. 整備計画図 配置動線計画	10
7. 施設・設備の整備案	11
8. 整備イメージ パース図.....	18
9. 管理・運営方針.....	19

1. 道の駅頓原周辺エリア整備の目的と背景

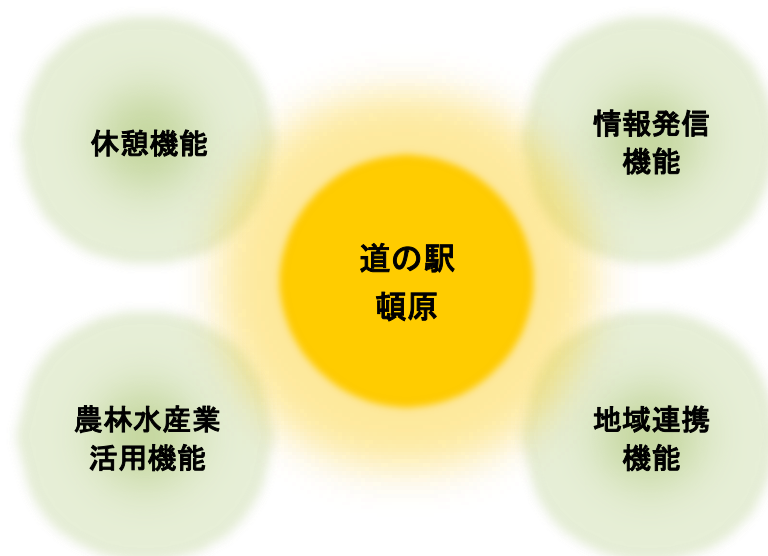
「道の駅頓原」は平成5年にオープンして以来、観光拠点として地域情報の発信など多様な役割を果たすほか、地域拠点としての役割も果たしています。周辺には、情報交流館をはじめ、本町の観光・産業に寄与する大しめなわ創作館やぶなの里等が集中する重要なエリアとなっています。



出典：道の駅頓原 HP

その一方で、これらの施設は順次設置されてきたこともあり、エリアとしての一体感に欠けるとともに、施設の経年劣化がみられ、利用者が必ずしも満足できる状況ではありません。また、隣接する緑地公園は、水はけや安全性（水路）の課題から、利活用が低迷している状況です。道の駅頓原への滞留・滞在などの来訪に寄与するような緑地公園の整備と活用の検討が不可欠になっています。

「道の駅頓原」周辺エリアの整備計画を策定し、国道54号の道路利用者のための休憩機能や情報発信機能を有するとともに、地方創生に向けて、農林水産業を中心とした地域の特性を活かし、活性化を図るための地域連携機能を併せ持つ新たな拠点施設として、道の駅頓原の一部を整備します。



2. 位置図及び対象区域

所在地：島根県飯石郡飯南町花栗 48 国道 54 号沿い

開 駅 日：1993 年 4 月 22 日

電話番号：0854-72-1111



アクセス：

吉田掛合 IC より車で約 20 分、

三次 IC より車で約 50 分

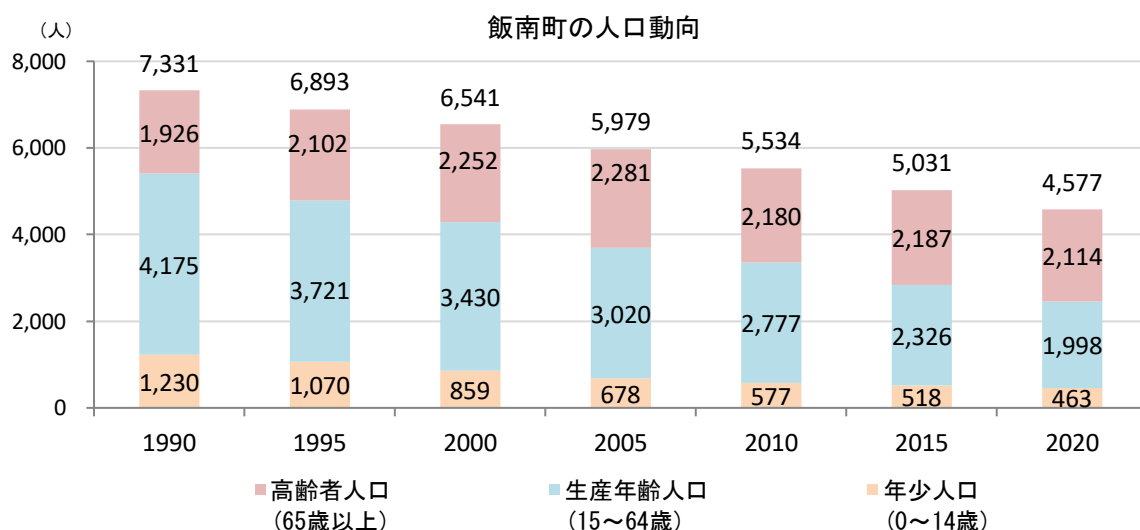
飯南町役場より車で約 20 分



3. 対象地を取り巻く環境変化

【人口】

本町の人口は減少傾向にあり、2020年の国勢調査結果では高齢者人口（65歳以上）が生産年齢人口（15～64歳）を上回りました。今後もこの傾向は続いていくものと想定されますが、少しでも人口減少を抑制するために、魅力ある地域拠点づくりを推進し、雇用の維持や定住促進を図ることが求められています。

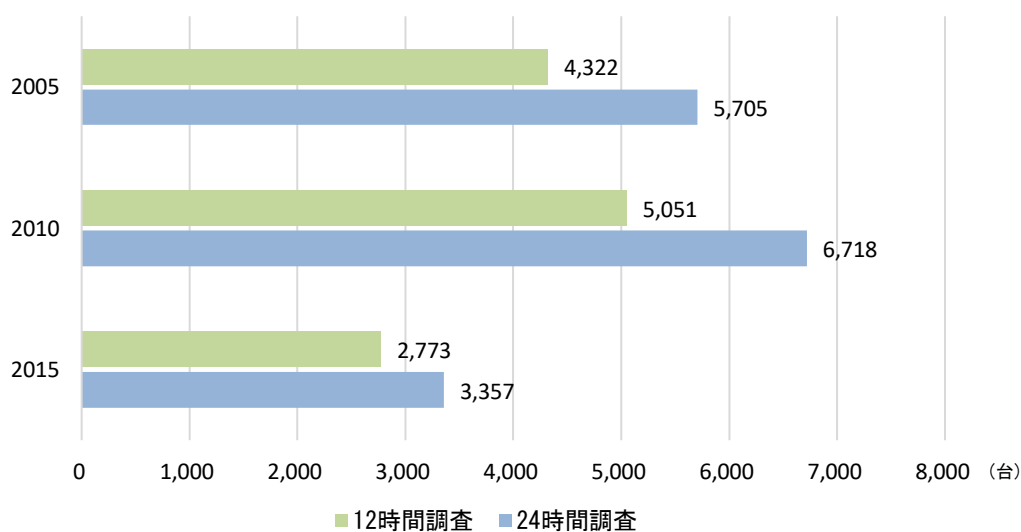


出典：各年国勢調査結果より

【道路交通量】

全国道路・街路交通情勢調査（道路交通センサス）での、道の駅頓原に最も近い国道54号観測地点（都加賀）の調査結果を以下に示します。2013年3月に松江自動車道の吉田掛合ICから三次東JCT.ICまでが開通し、飯南町を通過する交通量は著しく減少しています。立ち寄り利用を期待するだけでなく、道の駅自体の目的地としての魅力向上が必要と考えられます。

道の駅頓原付近 国道54号の12・24時間交通量調査結果（H17～H27年度）



出典：各年全国道路・街路交通情勢調査より（観測地点番号 Q10910）
※令和3年度調査 現在集計中

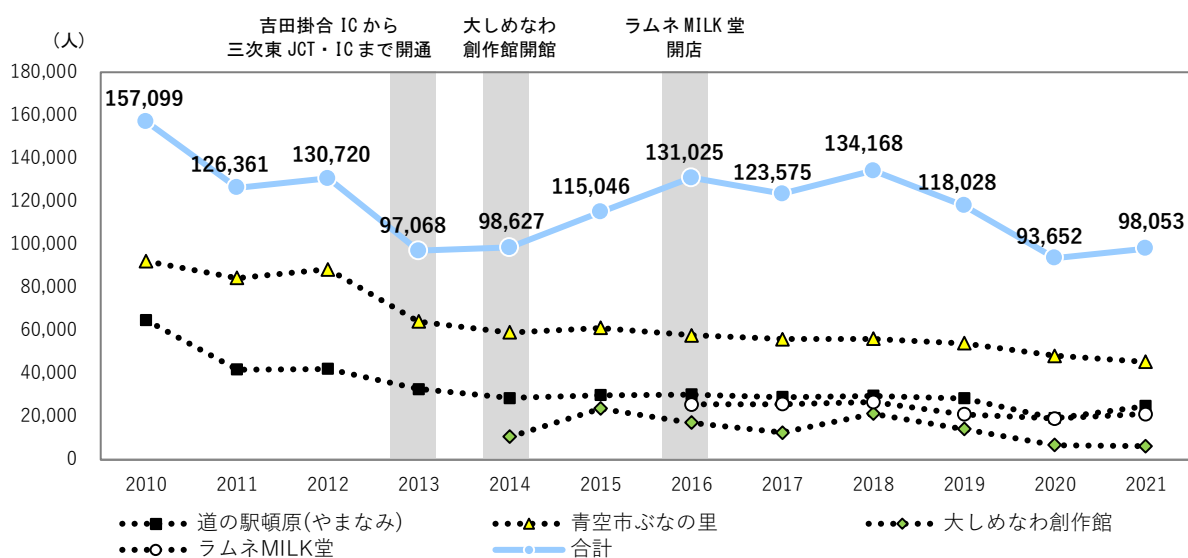
【道の駅及び周辺施設の利用者数】

利用者数は、新たな施設が設置されるタイミングで集計上は増加していますが、重複利用もあるため実質利用者数は伸び悩んでいる可能性もあります。2018年以降、減少数が大きくなっており、直近では10万人を下回っています。

- 島根県観光動態調査 観光地点別入込客延べ数 -

単位：人

観光地点	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
道の駅頓原(やまなみ)	64,874	41,959	42,256	32,811	28,727	30,062	30,357	29,040	29,726	28,537	19,228	25,006
青空市ぶなの里	92,225	84,402	88,464	64,257	59,155	61,294	57,753	56,017	56,194	54,104	48,349	45,442
大しめなわ創作館	-	-	-	-	10,745	23,690	17,243	12,614	21,439	14,236	6,878	6,315
ラムネMILK堂	-	-	-	-	-	-	25,672	25,904	26,809	21,151	19,197	21,290
合計	157,099	126,361	130,720	97,068	98,627	115,046	131,025	123,575	134,168	118,028	93,652	98,053



出典：各年島根県観光動態調査結果より

4. 敷地の現状

【現状図及び課題】 現状の道の駅頓原周辺エリアにおける主要な施設・設備等の現状配置及び課題をとりまとめました ※課題の詳細については次頁より記載します



【課題詳細】 関係機関・関係者からの意見等を参考

① 施設配置・整備について

- ・ 現在の施設配置では、冒険の森（芝生広場やしまねっこの別荘等）が国道 54 号及び駐車場から認識しづらい状態となっているため、施設後背地に広場等があるのがそもそも知られず、わからない状態。
- ・ ドッグラン、公園（広場）を整備することによって滞在時間の増加が見込める。ドッグランは現在でも需要があり、機能充実するとより魅力が高まる。
⇒ドッグランだけの整備でなく、犬も人も利用できるような施設・空間が望ましい
- ・ バス停位置が現在の位置だと施設から離れており、悪天候時等で不便である。路線によってバス停位置が異なる点も課題。
⇒施設の近接地にしてほしい。
- ・ 既存の建物周辺に平坦なスペースが少なく、安全にテントが設置できるスペースがなく、イベント等が開催しにくい。

国道 54 号から道の駅



② 駐車場

- ・ 休日などには駐車スペースが満車状態になるなど、現在駐車台数が足りていないため、駐車台数を再編する必要がある。
※現在の駐車台数 普通車 50 台 大型車 8 台（飯南町 公式観光ガイド HP より）
⇒ぶなの里の背後地から現在の冒険の森までが、駐車場を増設整備範囲として望まれる
- ・ 駐車場内に傾斜があり、改善が必要。舗装も劣化しつつある。
（ぶなの里と情報交流館とで高低差（70cm 程度）がある）

駐車場内の傾斜



③ 冒険の森

- ・ 山（自然）を散策できる道の駅は魅力になる。スニーカーで気軽に里山の魅力を体験できる場になるとよい。
⇒雨天後に日陰となるエリアのぬかるみ・水たまりの改善が必要
- ・ 冒険の森内の水路は蓋がかかっておらず、危険なため、可能な限り蓋掛けとし有効利用を図りたい。ただし、折角の自然環境なので一部でもビオトープの空間があることが望まれる。

冒険の森（芝生広場） 水はげが悪い



冒険の森内の水路



- ・ 冒険の森は、木が鬱蒼としている。間伐や遊歩道の整備程度を行うべき。
⇒スニーカーでも気軽に歩けるコース整備が望ましい
- ・ 芝生広場周辺に電気・上下水道設備を準備し、イベント時に町内外の方が出店できるような設備があると良い。上記に併せて常設のステージテントがあると良い。
- ・ 広場内に日除けは必要。
- ・ 町道から冒険の森に入る道はイベント時などで活用できるように整備されると良い。
- ・ しまねっこの別荘までは芝生広場から直接アクセス可能であると利用しやすい。
- ・ 桜の広場は活用すべき。桜だけでなく他の花木も植栽して季節ごとの誘客を図る(花モモ等)。

④ その他

- ・ 小規模のものでも複合遊具的なものはあった方がよい。丸太や廃タイヤ等でもよいのではないか。
- ・ ドッグランや遊具の整備を行う場合は、管理面についてもしっかり計画することが大事である。

5. 整備のコンセプト及び目指す整備効果

【整備にあたっての視点（整備コンセプト）】

前述した現状や課題を踏まえるとともに、これまで培ってきた「道の駅（観光・集客機能）」としての実績や機能を活かし、産業・観光及び地域拠点として更なる機能充実を図り、町内外から人々が集い、憩える場として整備を図るものとします。

整備にあたっては、以下の3つの視点を整備コンセプトとして、整備を進めていきます。

① 地域外の人が行ってみたくなる道の駅

松江尾道道の整備により、国道 54 号の通過者は大きく減少しており、それに伴い立ち寄る人も少なくなってきました。現在立地している機能（食事・産直市・伝統文化体験・山林・公園など）の充実と連携強化を再構築し、目的地として来訪してもらえるような道の駅を目指します。

（食、ペットや家族連れでの憩い、自然や文化とのふれあい・体験、イベント・情報発信など）

② 大人も子どもも遊んで楽しめる道の駅

現在は、食事・産直市・文化体験などや高齢者中心の施設になっており、背後の芝生広場や山林は十分に活用されていない状況です。芝生広場やドッグラン及び山林などの改善で親子連れなどがちょっとした遊びやピクニック、山歩きや自然観察等に訪れるような道の駅を目指します。

③ 住民に認識され、必要とされる道の駅

上記のような町外からも訪れるような魅力的な施設になっていくには、運営側と地域住民等とが一体となって促進（もてなしの充実）することが必要不可欠です。地域の人も楽しみ、生きがいをもって関わることのできる施設づくりによって、住民の自慢の施設になり、住民に認識され、必要とされる道の駅を目指します。

【目指す整備効果】

整備コンセプト

- ① 地域外の人が行って
みたくなる道の駅
- ② 大人も子どもも遊んで
楽しめる道の駅
- ③ 地域の人に認識され、
必要とされる道の駅

取組方針

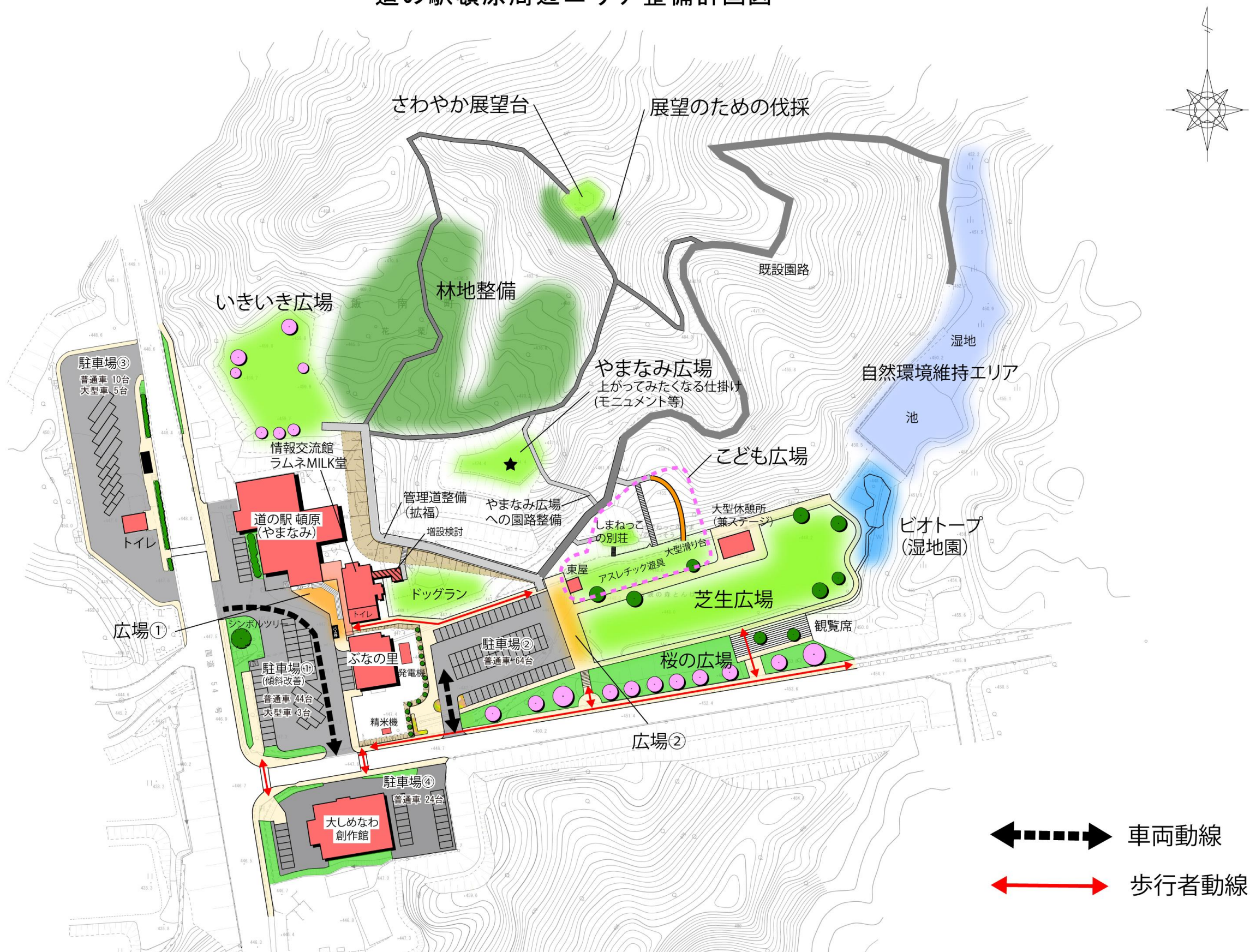
- ① 既存機能の充実・連携
食・産直市・伝統文化体験機能の充実と連携
- ② 基盤整備
芝生広場の改善
子どもの遊び場の充実
ドッグランの充実
伝統文化・自然体験の充実
イベント空間の充実
駐車場、設備整備等
- ③ 住民との連携強化
より多くの人々が企画運営に関わる

目指す整備効果

- ・ 町外からの訪問者の増加
- ・ 売上向上（産業振興）
- ・ 地域住民参加の推進
- ・ 住民利用者の増加

6. 整備計画図 配置動線計画

道の駅頓原周辺エリア整備計画図



7. 施設・設備の整備案

【施設・設備整備】

1) やまなみ（都市交流センター）

町内宿泊施設の再編を検討しており、今後遊休スペースが発生する場合があります。遊休スペースが出来た場合は、屋内遊具の整備も検討します。

2) 情報交流館・ラムネ MILK 堂及びドッグラン

<整備目的>

町外からペット同伴で来訪して、お茶やスイーツを楽しみながら、ゆったりとした時間を過ごすことの出来る憩い空間の充実を図ります。

<整備内容>

- ・ ドッグランスペースを拡充するとともに、水飲み施設等の機能充実を図ります（大型犬・小型犬を区分したエリアの設定）
- ・ ドッグラン隣接地に既存施設からつながった休憩エリアを増設し、ペットを見守りながら、休憩できるようにします
- ・ トイレをリニューアルし、道の駅やこども広場等の利用者が快適に利用できるようにします。

参考イメージ①



益田市 DogRun 遊 HP

参考イメージ②



江津市 風の国ドッグラン

3) 広場①（広場兼通路空間）

<整備目的>

道の駅や情報交流館等を主体としたイベントが恒常的かつ効果的に開催できるように、施設周辺にイベントが行える空間を確保します。

<整備内容>

- ・ 道の駅や情報交流館等でのイベント時に、出店としてテント等が張れるや休憩空間となる広場や設備等を整備します（通常時は歩行者通路として利用）

4) バス停（広場①内）

<整備目的>

現在バス停は国道側に複数分かれて設置しており、休憩スペースもありません。道の駅に隣接し、統合したバス停を整備することにより、バス利用者の待合環境の向上を図ります。

<整備内容>

- ・統合したバス停として情報交流館に近接した場所に移設します
(バス利用者が情報交流館でバスを待つことが可能)

5) 広場②

<整備目的>

広い芝生広場を活用した各種のイベント開催時に、にぎわい創出するための屋台（キッチンカー）等が出店できるような空間を確保します。

<整備内容>

- ・芝生広場横に通路を整備し、芝生広場でのイベント時にテント等での出店が可能なスペースや設備等を整備します。(通常は歩行者通路や休憩空間として利用)

参考イメージ(道の駅世羅)



6) 芝生広場

<整備目的>

家族連れで思い思いの遊びや遊び道具を使って、自由な遊びができ、ピクニック等が楽しめる芝生広場を整備します。

<整備内容>

- ・ 盛り土や透水管等を設置し、水はけの悪さを改善します
- ・ 現在、小さい子どもの落下の危険性がある水路は、蓋掛け又は暗渠化するなど、安全対策を講じます
- ・ 芝生広場等での遠足時に急な降雨があった場合に難場所として利用できるとともに、雨天時でもちょっとした遊びが可能な大型休憩所を整備します
- ・ 大型休憩所はイベント時のステージ空間としても使えるように配置するとともに、イベント電源等も整備し、容易にイベントが開催できるようにします

大型休憩所イメージ



隠岐の島町寺の前公園

7) こども広場

<整備目的>

しまねっこの別荘と連携して、家族連れの方の道の駅等の利用者が少しの時間でも遊ぶことができ、また滞在時間が長くなるようなこども広場を整備します。

<整備内容>

- ・親子で気軽に遊びに来れるように、町内にあまり設置事例がない大型滑り台及びアスレチック遊具を設置します
- ・日除け、雨除けとなる見守り空間として、東屋も併せて設置します
- ・隣接するしまねっこの別荘と一体的な利活用を促進するため、ベビーカーでも行きやすい動線や芝生広場と一体的な利用ができるような園路を整備します

こども広場イメージ①（左：大型滑り台、右：東屋）



西台公園



石見海浜公園

こども広場イメージ② アスレチック遊具



青葉山ろく公園

8) 桜の広場（観覧席）

<整備目的（利用イメージ）>

既存の桜や花木を活用しながら、他の花木も植栽した花見広場を整備します。

<整備内容>

- ・桜の広場と芝生広場の一体的な利用、花見席やイベント時の観覧席にも利用できるように、大型休憩所の向かいに大型の階段テラスを整備します

9) ビオトープ（湿地園）

<整備目的>

緑地公園全体として、飯南町の自然にふれあえる空間としての機能を維持するため、既存の自然環境を一部活用しながら、自然観察ができるビオトープ空間を整備します。

<整備内容>

- ・池及び湿地空間の再整備、解説板等を整備します
- ・整備箇所に立地しているトイレは撤去します

10) やまなみ広場

<整備目的>

やまなみ広場は道の駅や芝生広場及び周辺のやまなみが眺望できる場所となっています。利用を促進するため、上がってみたくなるような仕掛けを検討します。

<整備内容>

- ・施設や芝生広場等から確認ができ、上がってみたくなるような仕掛けを整備します
現状案：モニュメント
⇒飯南町の特徴を踏まえた造形物（星、りんごなど）
- ・撮影スポットとなるように整備します

やまなみ広場からの眺め



モニュメントイメージ



おっ玉葱（うずの丘大鳴門波子記念館 HP）

11) さわやか展望台周辺

<整備目的>

さわやか展望台は三瓶山等遠くのやまなみを見渡せる良好な展望地ですが、周辺の樹木が成長し、眺めが悪くなっているため、眺望の改善を図ります。

<整備内容>

- ・眺望確保のため、周辺の樹木の伐採等の整備を行います

12) いきいき広場

<整備目的>

いきいき広場の周辺に八重桜の植樹があり、花見の場として活用されています。

<整備内容>

- ・道の駅との間が急傾斜になっており、当面の間現状を維持する広場とします

13) 園路・林地

<整備目的>

冒険の森内の各広場が利用しやすいように回遊できるような園路を整備するとともに、沿道の隣地を整備し、安心して山歩きができる空間づくりを行います。

<整備内容>

- ・自然を感じながら里山空間の散策が楽しめ、園路の回遊性を高めるため散策道及び周辺林地を整備します
- ・各広場間の園路や管理道を整備します

14) 駐車場

<整備目的>

休日やイベント時では駐車場が不足している状況であり、新たな駐車場の拡充を図り、既存駐車場については、利用しやすいように傾斜を改善します。

<整備内容>

- ・駐車場の傾斜を改善します（駐車場①）
- ・芝生広場等が利用しやすいように駐車場を新設します（駐車場②）

※駐車台数はエリア全体で普通車約 140 台、大型車 8 台程度を確保

※ 民俗資料館

保健福祉センター横に設置されている民俗資料館を、道の駅頓原周辺エリアへ移設することも検討します。

飯南町 民俗資料館（S45 年設立）



8. 整備イメージ パース図



9. 管理・運営方針

「道の駅頓原」周辺地域には、都市交流センターやまなみ（飲食・物販等）、情報交流館、ラムネ MILK 堂、産直市の「ぶなの里」、大しめなわ創作館及び冒険の森が立地しています。

現在は、それぞれで施設の利用促進の取組やイベント等も開催されていますが、ここ数年は新型コロナウイルスの感染拡大などにより、あまり積極的に行われていない状況です。

今回の施設整備に合わせ、管理・運営体制の充実を図り、目標としている来訪者の増加を目指すことが求められています。

三次市や出雲市などの周辺地域に充実した類似施設も多く立地する中では、施設整備による集客というより、魅力的な食や特産品などとともに、飯南町ならではの交流（人との出会いや時間の過ごし方）による集客が重要と考えます。

今後、町と「道の駅頓原」周辺の各施設の管理運営団体が協力・連携し、交流が生み出せる体制づくりを検討していきます。

特に、大切な取組のポイントとして以下を考えます。

（１）構成団体の連携強化

今回の施設整備の過程を通して、目指すべき「道の駅頓原」周辺地域の将来像を共有し、それぞれの団体での事業を積極的に推進するとともに、今まで以上に連携して効果的な利用推進を図ることを検討します。

（２）地域住民等の参画促進

利活用を推進していくためには広報が重要です。より多くの地域住民や町民が今後この場所で展開される活動やイベント等の企画などに参加し、楽しく、豊かな時間を過ごしている情報を発信することで来訪者の増大につながっていくものと考えます。

関係機関等と連携して、より多くの地域住民等が参画できる方策を検討していきます。

（３）総合的な管理・運営体制の構築

上記の取組を推進するためには、総合的なエリアマネジメントの中で展開していくことが望ましいと考えています。

今後、関係機関等と連携して、魅力ある拠点づくりを目指した管理・運営体制の構築に向けた取組を促進します。